

昨年度、周南市では景観に関するC A A（市民と行政が一体となった委員会）提言書を作成、提出しました。私もメンバー15名中の一人です。周南市民の多くは、戦災にあった街に大した景観資源はないと意識しています。

委員会では 市内の多くの景観資源を探し出し、6項目の景観の特徴を絞り込みました。その中のひとつに「周南コンビナートの夜景」があります。

夜、新幹線が徳山駅に近づき、コンビナートの無数の明かりが見えて来ると「ああ、故郷に帰ってきたんだなあ。と実感する」というのが理由のひとつです。自然景観ではないけど、これは素晴らしい景観資源だと思います。

また新幹線下り線のホームに降り立つと「目の前に海が見える」と言うのも、徳山駅の自慢でした。

ところが、最近 ホームの目の前を塞ぐようにホテルができ、その視線を遮られてしまって、ホームからの景観はおおいに阻害されたのです。

こんな時 周りの市民の意識がもっと高かったらなんとかなっていた・・・か、どうかは別として、景観に対する意識をもっと・・・。いえ、それ以前にわが街の色々な景観に気付き、郷土愛がうまれ・・・そんな市民が増え、子供たちが学び・・・きっと、何年もかかるでしょう。でも、少しずつでも前に歩き出さなくては。これが、景観ワークショップやC A Aを通じて感じた1年生アドバイザーの想いです。